



## チェチェン紛争

左図でカフカス山脈の北側に、東西に並ぶ7つの共和国は、旧ソ連を直接構成する共和国ではなく、旧ロシア共和国（連邦制の共和国）を構成する共和国だった。その一つがチェチェン共和国。首都はグロズヌイ。ソ連の崩壊によりロシア共和国はロシア連邦となった。国民の多くは【1:

】である。旧ソ連時代には、宗教は原則として認められず、特に【1】は迫害された。

1991年、ソ連崩壊の直前であるが、チェチェンでは元ソ連軍の将軍であるドゥダエフを大統領に選出。一方的に独立を宣言した。ここで、ソ連崩壊(1991年12月25日)を迎える。

### 第一次チェチェン紛争

1) ロシア連邦の【2: 大統領は、チェチェン共和国の独立を認めなかった。小さな国であるが、チェチェン共和国は【3: 石油パイプライン】が出る。そして、バクーを發したカスピ海油田の【4: 石油パイプライン】の一つがここを通過している。ロシア共和国がここを失うと、莫大な原油資源を失い、独立したチェチェン共和国にパイプラインの「通過料」を支払うことになるからである。

2) 1994年にロシア連邦軍はチェチェンに侵攻し、チェチェン人武装勢力と激しい戦闘が始まった。ロシア連邦は膨大な数の地上部隊を派遣し一気にチェチェン全土を制圧する作戦に出た。チェチェン側は全面的な衝突は避け、かつてベトナム戦争で解放戦線が、アフガニスタンでムジャーヒディーンがとった様な【5: ゲリラ戦】を展開し徐々にロシア連邦を疲弊させる作戦に出た。ロシア連邦軍はその圧倒的な軍事力にもかかわらず、地上部隊の兵員の大半は徴兵されてまもない新兵ばかりで、チェチェン人ゲリラによる度重なる攻撃によって山岳地帯の支配ができなかった。兵器運用でも幾多のミス※1をした。

※1 たとえば航空支援無しで侵攻したロシア軍戦車部隊は、待ち伏せをしていたチェチェン軍「対戦車班」に様々な場所から同時攻撃を受けほぼ壊滅。ロシア連邦が投入したBMD-1やBMP-1、BMP-2、BTR-60、BTR-70等の装甲兵員輸送車や歩兵戦闘車は、チェチェン軍の対戦車兵器（RPG-7やRPG-18等）に対して全くの無力であり容易に撃破された。また強力な戦車砲や車体正面・砲塔前面に複合装甲を持っている戦車、T-64やT-72、T-80も投入されたが、地下やビルの2、3階などから急に現れる「対戦車班」に主砲は対応できず、機銃はそんなに上に向けられない。困っている間に、装甲の薄い砲塔や車体の上部を狙われ撃破された。高仰角をとれる対空機関砲を装備したZSU-23-4シルカや2K22ツングースカなどの自走式対空砲を投入し戦果をあげた。

3) ロシア連邦軍が広域に渡って支配権を回復したことで、エリツィンは1995年、一方的に休戦を宣言した。1996年5月27日、エリツィンはチェチェンの抵抗運動のリーダーたちと初めて会見した。1996年8月停戦が合意され、1997年、ロシア軍は完全に撤退した。1997年5月にはハサヴュルト協定が調印され、5年間の停戦が合意されていた。この戦争で推定10万人の市民と、2万人のロシア兵が死亡した。

### 第二次チェチェン紛争

1) 1999年8月、【6: 北オセチヤ自治州】とバサエフに率いられた1500名程のチェチェン人武装勢力が隣国ダゲスタン共和国へ侵攻し、一部の村を占領した。また同時期にモスクワではアパートが爆破されるテロ事件が発生し、百数十名が死亡した。これを境に紛争は再燃した。これらを受けて、ロシア連邦はチェチェンへの軍派遣を決定。9月23日には「テロリスト掃討」のため、再びチェチェンへの空爆を開始し、ハサヴュルト協定は完全に無効となった。

2) 第一次紛争の時、はじめから地上軍を投入した失敗に学んだロシア連邦軍は、戦争の最初の数ヶ月間、制空権の優位性を利用し、グロズヌイや他の主要都市への激しい無差別爆撃や【7: 空爆】による攻撃を行った。クラスター爆弾、燃料気化爆弾なども使用したが、これらの攻撃によって民間人への被害も発生した。ロシア連邦軍は多くの死傷者を出さずにすんだ。チェチェン共和国の回廊地帯は、都市の市民たちの避難場所になった。ロシア側、チェチェン側双方で拷問、強姦、略奪、密輸出入、横領などの犯罪が行われた。

3) 一般市民や政府などに対するテロ攻撃も数多く起きている。

2002年

モスクワ劇場占拠事件 ……169人死亡

チェチェン共和国の首都グロズヌイの政府庁舎爆破 …… 72人死亡

イスラム原理主義の抵抗運動のリーダーであるハッターブが（「毒入りの手紙」で）暗殺され、アミール・アブ・アルワリドが跡を引き継いだ。

2002年12月、チェチェン共和国の首都グロズヌイで爆弾を積んだトラックが爆発。チェチェン共和国政府ビルが破壊され、70人以上が死亡した。

2003年 共和国北西部の行政庁舎爆破 ……60人以上死亡 モスクワ野外コンサート会場爆破 ……15人死亡

2004年

モスクワ地下鉄爆破 …… 41人死亡

グロズヌイの対独戦勝記念式典を爆破……大統領 カディロフなど30人殺害

イングーシ共和国内務省などを襲撃……約90人死亡

モスクワ発旅客機同時爆破 …… 80人以上死亡

モスクワ地下鉄駅付近爆破 …… 約10人死亡

北オセチア共和国【8:】 学校占拠事件 …… 322人死亡

2004年9月1日から9月3日にかけてロシアの北オセチア共和国ベスラン市のベスラン第一中等学校で、チェチェン共和国独立派を中心とする多国籍の武装集団(約30名)によって起こされた学校占拠事件。7歳から18歳の少年少女とその保護者、1181人が人質となった。3日間の膠着状態ののち、9月3日に犯人グループとロシア治安部隊との間で銃撃戦が行われ、治安部隊が建物を制圧し事件は終了したもの、386人以上が死亡(うち186人が子供)、負傷者700人以上という犠牲を出す大惨事となった。首謀者はチェチェン人のシャミル・バサエフ。

2004年には親ロシア派のチェチェン大統領【9:】が爆弾で暗殺された。

カディロフを通じてチェチェンの安定化を図ろうとしていたロシア政府にとって、大打撃だった。もっとも現在では、上記のバサエフ・ハッターブ等、当初の過激派指導者は軒並み殺害され、その他の穏健派指導者も大半は国外へ脱出しており、独立派の弱体化も指摘されている。

2005年 カバルダノ・バルカル共和国首都ナリチク同時襲撃事件

4) 米英空軍の【10:】空爆(2001年10月)以降の世界的な「テロとの戦い」という流れの中で、前掲3)のようなテロの連続を見ると、一般的にはチェチェン紛争もその「テロとの戦い」の一部と見なされることは多いだろう。ロシア連邦大統領プーチン(任1999-2008)のチェチェン独立過激派に対する強硬策には批判も出ている。

5) チェチェン独立派は、この戦争によりこれまで6万人の市民が死んでいると主張、ロシア国防省はこの紛争で、1000人以上のロシア兵が死亡したと発表した。チェチェン独立派指導者の一部は西側諸国に対して仲介を要望し、またロシア連邦に対して抗議し続けている。チェチェン独立派は当初は各国から支援を得たが、アルカーイダ等テロ組織との関係を疑惑視され、孤立無援となっていった。

チェチェン人女性の自爆テロ事件の中には、殺害された武装勢力兵士の妻などが、仇討ちのために挺身したケースもある。一説によると、夫を失った妻のテロ組織「黒い未亡人」というグループが存在するともいわれる。

6) 2009年4月16日。ロシア共和国はチェチェンにおける「対テロ作戦」を終結すると発表した。一応の治安は回復されたが、なおも独立要求は収まっていない。チェチェンは不安定で問題は未解決のままだ。

## グルジア紛争

日本では2015年4月22日以降は「ジョージア」と表記する。

1) グルジアは、カフカース山脈南麓に位置する共和国。旧ソビエト連邦の構成国のひとつで、1991年に独立した。首都はトビリシ。ヨーロッパに含められることもある。

2) スターリンは民族政策として南オセチア自治州に親ロシアのイラン系住民を入植させた。

3) 1991年、ソ連邦が崩壊して、グルジアは主権国家として独立を宣言。しかし、もともと強かった反ロシア感情から旧ソ連の共和国との貿易を断つたため経済が混乱した。そこへ、南オセチアやアブハジアの民族運動が激しくなった。

4) グルジア政府は【11:】の分離独立を認めず、自治権を廃止し、軍を進駐させた。これに対しロシア連邦がグルジアに軍を撤退させるように命令、緊張が高まった。グルジアは経済的不安定さもあって、政権交替が起き、新大統領に旧ソ連の外相でもあった【12:】が就任。一転して親ロシア政策に変更し、戦争は回避された。その後、2008年、ロシア連邦は南オセチアのグルジアからの独立を承認したが、国際社会の承認を得ていない。

5) 【13:】は、1922年にグルジアに編入されて以来、反グルジア感情が強い。どちらかと言えばソ連の方がマシという帰属心を持っていた。グルジアの「民族浄化」政策で、アブハジア人は少数になってしまったが、彼らも分離独立を要求。1992年、アブハジアはついに独立を宣言する。

6) グルジアはアブハジアの独立を武力で制圧、アブハジア人はゲリラとなって、ロシアやイスラム系過激派の援助を受けて戦い、一時期アブハジア全土を制圧し、グルジア人を逆に「民族浄化」し返すということもあった。94年に一定の自治と引き替えに停戦合意が結ばれたが、独立は出来なかった。2008年、ロシア連邦はアブハジアのグルジアからの独立を認めたが、国際社会の承認を得ていない。

7) なお、シェワルナゼは不正選挙で国民の怒りを買って、2003.11.23に辞任。新大統領として【14:】※2が短期間就任。次いで【15:】※3が就任したが、2012年10月の選挙の結果、ロシアとの関係改善を目指す野党連合「グルジアの夢-民主主義グルジア」が勝利し、同連合代表で実業家のビジナ・イヴァニシヴィリが首相に指名された。そして、2013年10月27日に行われた大統領選挙で、「グルジアの夢」が推薦した【16:】

候補が圧勝し、強固な反ロシア・親欧米政策を推し進めてきたサアカシュヴィリ体制は終焉を迎えたが、現在でもEU加盟を目指す方向性は変わっていない。

※2 ブルジャナゼ(女性政治家) 2003.11.24~2004.1.25 2007.11.25~2008.1.20

※3 サアカシュベリ 2004.1.25~2007.11.25 2008.1.20~2013.10.27

ギオルギ・マルグヴェラシヴィリ 2013.10.27~

## 2012 西南学院大学 2/8、A日程・一般・センター併用 人間科 抜粋 原問は選択式

冷戦が終結しソ連が解体したことで、これまで抑えられていた民族間の対立が各地で表面化した。ロシアでは【f】共和国が分離独立を主張したのに対して、当時のロシアの大統領【g】は、1994年の武力介入によりこれを抑えたものの、対立は今なお続いている。またユーゴスラヴィアでは1990年に複数政党制と自由選挙の導入が決定されたものの、連邦と各共和国の間の対立が深まっていた。そして1991年には【h】とクロアチアが分離独立し、1992年に連邦は5つの共和国に分裂した。その後セルビア人を中心とする新ユーゴスラヴィアでは独裁的な政権が現れ、分離独立を求めたコソヴォに対して武力弾圧を行った。これに対しては1999年に【i】が武力介入(空爆)を行ったものの、問題の解決にはならなかった。

f:チェチェン g:エリツィン h:スロヴェニア i:NATO